日本家族性腫瘍学会 2015 年度第 2 回理事会　議事録

日　時：2015 年 6 月 4 日（木）15:10～18:00
場　所：ラフレさいたま 4 階　欅 I
出席者：冨田尚裕、田村和朗、青木大輔、石川秀樹、石田秀行、大住省三、鈴木真一、
菅野康吉、武田祐子、田村智英子、松原長秀、三木義男、村上好恵
数間恵子（監事）、執印太郎（監事）
事務局、編集事務局：飛松

報告事項：

1. 事務局より会員数および年会費納入状況について報告があった。
また、2015 年 5 月から 2015 年 5 月までの新規入会者報告があった。
2. 各種委員会報告
①総務委員会：田村和朗理事より、会則、倫理各委員会とコラボレーションして各種検討を行っている件、遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会準備を担当している件、および、がん治療医認定医機構関連学会連絡協議会に三木理事が出席したことが報告された。
今後も同協議会の担当は三木理事にお願いすることとした。
②財務委員会：報告事項はなし。
③将来検討委員会：石川理事より、審議を行っていた、出版事業については、編集委員会へ引き継ぎをし、遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会については、総務委員会へ引き継いだことが報告された。今後は、Li-Fraumeni 症候群など希少疾患について、附置研究会の設置を検討しており、次回理事会にて提案できればとのことであった。
④会則委員会：報告事項は特になし。
⑤専門医・FCC 制度委員会：菅野理事より、FCC 制度委員会、第 17 回後期セミナーの収支報告があった。今回より、日本家族性腫瘍学会の監事に監査を依頼しており、数間監事より、監査の結果、適正に執行されているとの報告があった。
また、第 18 回前期セミナーの一般参加オンライン受付が開始と同時に、アクセス集中により、サーバーがダウンし、受付が行えなかった件について、原因と対策に関する報告があった。専門医・FCC 制度委員会での審議結果として、受け入れ人数を会場収容人数最大の 200 名まで増員し、そのなかで会員の受け入れ割合を増やし、受付再開後は、先着順にはせず、期間を設けて受付を分散化し、受付期間終了後、会員と一般を分けて抽選を行う予定であるとの報告があった。
また、並行して、来年 3 月の福岡での収容数も増やす方向で検討中であることが報告された。
⑥編集委員会：石田理事より、15 巻 2 号刊行報告および第 20 回学術集会での投稿勧誘候補者で、投稿承諾の連絡後、未投稿となっている 9 名へ、もう一度投稿を促す連絡をする予定であることが報告された。今回の第 21 回学術集会でも要望・一般演題から座長推薦を募り、勧誘する予定とのこと。
学会として、学会雑誌への投稿に何らかのインセンティブをつけることを検討してはどうかとの意見があり、今後検討していくこととした。
電子化に伴う投稿規程の見直しおよび 2 重投稿、利益相反申告書について、原案承認後、倫理委員会の進捗状況を踏まえ、電子化に沿った形で、若干変更を行い、最終決定を行う予定。
また、学会誌電子化に関する進捗状況および次号掲載予定内容について報告があった。

⑦学術・教育委員会：三木理事より、遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会の内容に沿ったセミナー等を企画していきたいとの報告があった。

⑧倫理委員会：武田理事より、COI 指針および申告書案の提示・説明があった。総務委員会と合同で検討を行っており、編集委員会から提示のあった利益相反申告書とも内容をあわせ、また、全体の整合性を再度確認し、案としてホームページへの掲載を行い、会員からの意見を募ることとした。

⑨ガイドライン委員会：大住理事より、乳癌診療ガイドラインおよびNCCN ガイドラインリンク許可を得て、学会ホームページへリンクを行った事が報告された。リンクが見やすいように、今後、広報委員会と相談して、レイアウトを調整していく予定とのこと。

⑩国際委員会：松原理事より、近く開催の関連国際学会について説明があった。向こう2年間程度をリストアップし、ホームページに掲載するように進めていく予定である。

⑪遺伝カウンセリング委員会：田村智英子理事より、現在、遺伝カウンセリングに関する資料を集めており、ホームページで利用できる方向にしていきたい旨、説明があった。既存の資料を活用し、学会として、遺伝カウンセリングのコンパクトなガイドラインを作成できないか草案を検討中とのことであった。次回理事会で提案できるよう進めていきたい。

⑫広報委員会：村上理事より、ホームページの構成について検討し、見やすいものへ改良を行い、定期的に情報発信をしていくことを目標として、掲載にあたっての手続きの整備や、会員への有益な情報配信の計画を立てるなど、具体的な活動についての報告があった。

一般の方への情報として、遺伝性に関する外来のある病院紹介なども掲載してはどうかとの提案があり、会員のいる施設を紹介してはどうかといった意見などがでた。広報委員会で今後検討していくこととした。

掲載可否の判断については、掲載依頼は村上理事がとりまとめ、学会誌の電子化やニュースレターとの整合性なども含め、内容を考慮し、広報委員会での判断で対応するもの、理事会承認を得る必要があるものなど、振り分けをしていくこととした。

また、既存資料をホームページに掲載する際、引用時に著作権などの問題に気をつけるようにとの意見があった。

3. 菅野理事より、第 18 回前期家族性腫瘍セミナー準備報告があった。8 月 6 日から 8 日に国立がん研究センターで開催予定。FCC 制度委員会でも報告のあった、一般受付でのサーバーダウンの問題について、善後策を検討していくとのことであった。
4. 第 22 回学術集会会長の大住理事より、第 22 回学術集会開催案内があった。2016 年 6 月 3 日、4 日に松山市の「ひめぎんホール」にて開催予定とのこと。テーマは To the Next Stage としたことが報告された。
5. 遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会（仮称）第１回準備会報告があった。将来検討委員会から、総務委員会の田村理事へ移行後、第１回目の準備会を開催した。今後は（仮称）をとり、遺伝性腫瘍研グループ連絡協議会として活動をしていくとのことであった。

審議事項：

1. 青木理事より 2014 年会計報告があり、あわせて、数間・執印両監事より監査報告があり、承認された。
2. 田村和朗理事より、会則変更について説明があり、審議の結果、下記の通り承認された。評議員会および総会に諮ることとした。総会承認後、6 月 5 日から改正、施行となる。

【現行会則】第 31 条 3　会計年度は毎年 1 月 1 日に始まり，12 月 31 日に終わる.

【新会則】第 31 条 3　会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり，翌年 3 月 31 日に終わる.

3. 青木理事より 2015 年度補正予算について説明があり、審議の結果、会則変更が評議員会および総会にて承認されることを条件として、2015 年 1 月から 12 月および 2016 年 1 月から 3 月予算について理事会として承認することとした。
また、秋の理事会で、次年度の予算案作成を行うため、後日、事務局から各種委員会に予算申請確認の連絡を送ることとした。

4. 第 23 回（2017 年）学術集会会長候補について審議が行われ理事会からの候補者を選出した。

5. 各種委員会審議

①総務委員会：田村和朗理事より、倫理委員会より報告のあった COI 指針の件に加え、日本医学会の指針がかわってきており、そちらとも調整していくべきとの意見があった。内容を精査し、理事会 ML にて回覧したのち、COI 指針案として学会ホームページに掲載し、期限を切って意見を求める形をとることとした。

②財務委員会：会計監査および補正予算についての審議以外の事項は無し。

③将来検討委員会：石川理事より、まずは、Li-Fraumeni 症候群について、附置研究会を立ち上げて、研究チームとして進めていきたいとの提案があり、審議の結果、承認された。他の疾患も、今後、検討いただくこととした。

④会則委員会：鈴木理事より COI 指針および会計年度改訂の件について、会則と整合性が必要であるとの意見があり、各委員会と協力して進めていくこととした。

⑤専門医・FCC 制度委員会：菅野理事より、今後、厚生労働省科研との共同開催としての 4 回のセミナー受講者を対象に、①家族性腫瘍診療に関する教育セミナー効果の検討（仮）として、臨床研究評価アンケート調査を行うこと、②学術集会会期中に FCC 対象の生涯教育として開催の「遺伝子診療を考える会」についても、日本家族性腫瘍学会と厚生労働省科研との共同主催とすること、こちらの参加者についても評価アンケートを行うこと、について審議が行われた。

審議の結果、

・日本家族性腫瘍学会としては臨床研究のフィールドの提供のみとなる。
・アンケート内容については、菅野理事が確認を行い、共同研究者の所属先である京都大学の倫理委員会を通っている。
・アンケートは任意である。
・アンケート最終版を理事会 ML に回覧をする。

ことを条件に承認することとした。

⑥編集委員会：石田理事より、出版事業の方向性について、委員会で検討を行い、

・家族性腫瘍の全般にわたる教科書
・個々のハンドブック
・海外のガイドラインの要約
・家族性腫瘍の症例集

の 4 つの候補をあげた。

早期実現可能なものとしては、症例集が良いのではないかとのことで、審議が行われた。家族性腫瘍全体を対象とした、日本語での「Case Study」の方向で検討していくことが決定した。

出版物になるという前提で執筆を依頼する形とし、編集委員会で具体的に進めていくこととした。

⑦学術・教育委員会（三木理事より、最新の情報を提供するセミナーなどを企画していきたい旨提案があり、承認された。学術・教育委員会で進めていただくこととした。

⑧倫理委員会：武田理事より、倫理委員会の体制を見直し、整えていきたいとの意見があり、検討を進めていただくこととした。

⑨ガイドライン委員会：大住理事より、ガイドラインのホームページリンクについて、現在のホームページでは、階層が複雑で、わかりにくいため、今後、広報委員会と連携して更新を進めていきたいとの意見があり、承認された。

⑩国際委員会：松原理事より、国際学会のホームページリンクについて、

⑪遺伝カウンセリング委員会（田村智英子理事）

⑫広報委員会：村上理事よりホームページリニューアルの検討および委員会メンバー増員について、資料提示および説明があり、承認された。委員会メンバーについては、今後、婦人科領域の方の増員を検討していきたいとのことであった。

6. 学会会計一体化 WG：石川理事より、資料提示・説明があり、まずは、学会会計は、一本化をすることとした。今後は、学会体制に一番適していると思われる、「非営利一般社団」をめざして検討していくこととする。その中で、学術集会も一本化する必要があれば、行っていくようにすることとした。
   セミナーの位置づけを特別会計としてはどうかとの意見があり、財務の青木理事に検討をお願いすることとした。なお、法人格取得については、次回以降継続審議とする。
7. 新評議員推薦について資料回覧、審議が行われ、推薦のあった、東北大学病院腫瘍内科　下平秀樹氏が評議員として承認された。評議員会に諮り、承認が得られれば、総会にて報告することとする。
8. 学会の今後の事業について、評議員の構成の見直しをし、将来的には評議員も選挙制としたいとの提案があり、審議を行い、職種、地区枠などの規程を設け、全会員による評議員制度導入に向けて検討していくことが決定した。選挙規程など、会則委員会で検討していくこととした。
9. 財政基盤の検討が行われ、会費値上げについて検討した結果、現在のまま据え置くこととした。
10. 遺伝学的検査の保険診療適応についての要望など、日本家族性腫瘍学会としての声明をホームページに掲載していってはどうかとの意見があり、その方向で進めていくこととした。